

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひまわり)

事業所番号	06		
法人名	東北医療福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーさがえ		
所在地	山形県寒河江市寒河江字小和田41-5		
自己評価作成日	平成 25年 7月 1日	開設年月日	平成16年 6月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の行事を取り入れている。笹巻きやぼた餅などを一緒に作り昔を思い出しながら食べる機会を設けている。又畑で収穫した里芋や葱を使って家族や地域の皆さんを招待し芋煮会を開催している。日中は活動的に過ごして頂ける様にドライブ・買物・散歩・外食等に出掛ける機会を多く持つ様に支援している。ご利用者様の笑顔をたくさん引き出せるような支援を心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オールインワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 25年 8月 23日	評価結果決定日	平成25年 9月 9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所玄関に掲示し朝礼とユニット会議時に理念の唱和を行うことで、常に入居者と関わる際に意識しながら実践するように努めている。個人を尊重し、地域密着を踏まえた理念となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物に出掛けたり、近所の方と挨拶や、何気ない会話を交わし、近隣の方が気軽にホームに立ち寄って下さるなど、馴染みの関係を築くことが出来ている。地域のお祭りには入居者と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年3回ホーム便りを作成し、地域の方々に配布し、ホームの生活の様子や取組を理解して頂けるように取組んでいる。避難訓練や講習など、地域の方をお誘いし、職員と共に学ぶ機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、活動状況や入居者、職員の状況等を報告している。又、意見や要望を取り入れながら、事業所の向上に活かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する連絡会へ参加するなどして事業所の活動を理解していただけるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関の鍵を常に開放し、入居者が自由に外へ出入り出来るようにしている。入職時の研修に於いて、身体拘束についての説明を行い、拘束のない介護を実践している。今後も理解を深める為に学習の機会を設けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自治会や関係機関で開催される研修会などで学ぶ機会があり、全体会議で振り返り学ぶ機会を設け、職員全員が共通した理解と意識を持てるよう取り組んでいる。入居者毎に支援方法を検討し、虐待発生防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への職員の派遣を行っていきと共に研修会後の報告会、資料配布などを行い全職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明を行うようにしている。重度化や看取りについて、ホームでの生活上起こりうる事等も説明している。家族の不安や疑問についても十分に話し合いを行い、関係機関との連携を図りながら対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際に入居者の状況等を伝えながら家族の意見等を伺うようにしている。又、意見や要望を話しやすい関係構築を図り、意見等があった場合には、早急に対応し、再度意見を伺っている。毎月傾聴ボランティアの所訪があり外部者へ表わせる機会を設けている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット毎に毎月ユニット会議と、2ヶ月に一度全体会議を開催し、職員間で話し合った意見を聞き、活かすように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で、職員の希望等を聞き活かすようにしている。職員がやりがいを持ち、向上心を持って働けるよう取り組んでいく。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や県のグループホーム協議会主催の研修や交換研修に参加し、他事業所の方とも意見交換を行う機会を設けたり、研修参加時の資料や参加者のレポートを回覧し、内容を共有出来る様にしている。職員が求めている事や力量を把握し、個別に指導を行ったり、勉強会の機会を設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内で事例検討会や研修などが定期的であり、法人内で他の事情所と一緒に学ぶ機会があり交流の場にもなっている。又、市や県のグループホーム連絡会主催の研修会や交換研修等に参加し意見交換を図り、サービス向上に繋がられるよう努めている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、本人の状態や生活状態の把握に努め、本人の話を傾聴しながら困っている事、不安に思っている事等、本人の気持ちを把握するように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や、困っていること、不安に思うことなど、又事業所への希望などをうかがい、事業所としてどのような対応が出来るか話をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の気持ち、状況を把握し、入居者や家族のニーズに合わせた支援を見極め、支援の提案を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、手伝っていただいた際には、感謝の言葉を伝えている。畑の作業や調理の際は、入居者の方からアドバイスを頂き、職員が教わることもあり、支えあう関係が築かれている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、入居者の方の若かったときの様子や、家族の方しか知りえない情報などをお聞きし、共に入居者を支えていく関係を築きながら、現在の支援に活かせるよう取り組んでいる。より信頼関係を深めるために、家族との交流の場を増やす機会を設けていく。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方は、友人の方が気軽に面会に来て頂き、継続して頂けるよう働きかけている。外出の際は、馴染みの地域へ出掛けているが、気軽に馴染みの店や場所へ出掛けられるよう検討し、取り組んで行きたい。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにはソファを3箇所置くことで、入居者同士の団欒の場となっている。テレビを見ながら、調理の下準備を行っていただいたり、歌を歌ったりと、様々な関わり場となっている。入居者間でトラブルが生じた場合は両方の入居者に配慮した、速やかな対応ができるよう随時検討しながら取組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の方が気軽にホームに立ち寄っていただけるよう、入居時から、本人や家族の方と継続できる関係が築けるよう取組んでいきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や表情などからも、それぞれの思いや希望等を把握するように努めており、日によっても柔軟に対応できるよう努めている。ユニット毎に、居室担当者を配属し、個人の変化等、気付いた事を居室担当者が主となって、職員全体で話し合い検討する機会を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接で本人の生活歴や生活スタイル、趣味やサービスの利用状況等を本人や家族から聴き取り、情報の把握に努めている。又、様々な日常会話の中からも状況把握に努め、入居してから家族の方からの情報聴き取りを行い、更に情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や体調、心身状態を観察し、日によっての変化も見極めて現状把握に努め、変化に応じた本人の一日の過ごし方や有する力を把握し、個々に柔軟な対応を出来るように努めている。一日の大半を居室で過ごされる方が、数名おり、訪室し会話する機会を日に何度か設けることで本人の状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体でカンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを反映したケアプランを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや、家族の方との会話を、毎日の個別の記録に情報として残している。職員間で素早く情報を共有できるようにしており、介護計画の見直しや評価に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が地域生活を継続していく為に、周辺施設や商店、ボランティア等の協力を得ながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関となっており、入居者の状態変化がある場合、家族と相談の上、適切な対応が出来るよう連携を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に健康管理や状態変化に応じた適切な支援を行えるようにしている。不在時は電話連絡をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、職員が見舞いに行き状態確認を行ったり、家族や医療関係者と情報交換を行いながら、速やかな退院支援に結び付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応、看取りに関して指針を定め、家族から同意をもらっている。又、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、医療関係者と連携を図りながら、今後について検討するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、いつでも確認出来るようにし、周知徹底を図っている。心肺蘇生の講習開催し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難誘導の方法や避難経路の確認、消火器の取り扱い等の訓練を行っている。昼夜に設定を分けた訓練を行い、柔軟でスムーズな対応が図れるよう取り組んでいる。地域住民に参加を呼びかけることで、ホーム内だけではなく地域の協力を得られる訓練を目指している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が同じ意識を持って、人格、プライバシーや誇りを損ねることのないよう声掛け等を心掛けている。生活歴から、入居者の経験を元に職員がアドバイスを受けてたり、本人らしさを日常的に発揮できるよう取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自ら思いを表現できるような関係の構築と、様々な場面で個々に合わせた自己決定の場面を作れるよう、工夫した声掛けを行っている。又、ゆとりを持って、本人の希望に、添えるような時間の確保作りに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを把握した上で、日に応じた本人のペースを尊重出来る様に心掛けている。入居者の個々の動きに合わせ、混乱を解消しながら、見守れるよう職員の連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを把握し支援を行っているが、男性入居者が半数以上であるため、起床時に髭剃りを行い、身だしなみに配慮している。本人の意向で衣類を選んでいる方で、不十分な所があれば、本人のプライドに配慮しながら声掛けや対応を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、入居者の好みを聞き、献立作りを行っている。食材は一緒に買い物に行き、一緒に選んで頂いている。調理の段階からお手伝いいただける方が限られており、参加いただく機会が少ないため、個々の出来ることを把握し、今後は積極的に参加いただけるよう取り組んでいく。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より、栄養面での指導を仰ぎ、栄養管理を行っている。全ての入居者の水分摂取量を記録し、水分摂取の状況の把握を行い、一日、1リットルの摂取を目指した支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた声掛けで本人の出来る力を活かした口腔ケアの支援を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄行動パターンや時間でトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。失敗した場合は羞恥心に配慮しながら対応が出来るよう取り組んでいる。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分摂取や、牛乳の飲用を促したり個々の状態に合わせて下剤量を調節し使用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者から入浴を希望することが少ない為、職員から声掛けを行う場合が殆どだが、その際に本人の意思を確認し、体調管理に配慮しながら、ゆつたりと楽しんで頂けるよう支援している。発汗の状態や清潔保持に応じて入浴を促す場合もある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状態に合わせて、昼食後や、外出から帰宅後には、休息出来るよう配慮したり、ソファでゆっくりと過ごしていただいている。個々に応じた夜間の安眠が確保できるよう、日中の過ごし方を、随時検討し、夜間不眠時には、不眠に対する不安を解消できるよう対応を行って行く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者の投薬状況表の基き、薬の目的や、副作用を理解し服薬支援を行っている。服薬の変更があった場合は、看護師より、看護師ノートに記載があり、職員全員が随時把握できている。服薬による症状の変化の観察に努め、看護師に随時報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割を見出し、継続できるよう取り組んでいる。毎日行っている体操は、楽しい日課となっており、積極的に参加していただいている。気軽な外出や、おやつ作り、などで気分転換が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の入居者の気分や希望に応じて買い物に出掛けたり、季節感を感じられるよう散歩に出掛けたり、自宅付近の馴染みの地域へ出掛けている。一部の方は家族との散歩や外出の機会もある。外出の機会が、入居者によって偏っているが、一部の方は外出を好まないため、本人の希望や体調、又、本人の外出の希望に添った外出支援が出来るよう情報を増やし、機会作りに取り組んで行く。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方がいないため、嗜好品や気軽な買い物は出来ていない。又、嗜好品の購入の希望などもなく、買い物に出掛けた際にも、そうした希望はないが、食器などの個人で使用するものの購入時には、本人に選んでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙での交流は図れていないが、年賀状を出せるよう支援している。本人や家族の意向を把握した上で、電話や手紙の支援が図れるよう取り組んで行く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気と、季節感を感じられる装飾を行い、季節感のある献立を工夫している。不快や混乱をまねくことがないよう、配慮している。体感温度に個人差がある為、風や室内温度には常に調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の行動に合わせた椅子の配置や、気の合った入居者同士で過ごせる環境を整え、共用空間に於いても思い思いに過ごせるようスペースの配置に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての入居者が、使い慣れて布団を使用されている。居室内に馴染みのものが少ない方は、職員が、落ち着ける空間作りを思案し、写真や装飾を行うなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活に於いて、本人の有する力を活かせるような建物内部になっており、入浴や排泄、起床準備や作業等で様々に活用出来ている。より安全で、出来ることの維持を図るために、個々の能力に応じた使用方法を随時に検討しながら、自立支援に取り組んでいる。		